

ヒッポのみんなのマナイマ～な暮らし

まいにち多言語

《Multilingual Natural Immersion》

Vol.8

2025年7月24日 発行

ウェブサイト <https://mainichitagengo.net/>

一般財団法人
言語交流研究所
ヒッポファミリークラブ



東京都渋谷区渋谷 2-2-10 青山 H&A ビル 3F
ヒッポ公式サイト <https://www.lexhippo.gr.jp>

多様な音と人の中でことばは育つ

ヒッポで大切にしているのは、今も昔も多様な音と人に囲まれた自然にことばが話せるようになる環境作り。いつも「みんなで一緒に実験だー!」と新しいことにチャレンジしている子育て中のママさんフェロウ（地域の定例活動の主催者）の様子を紹介します。



茨城県守谷市で地域の定例の活動の場「ファミリー」

を始めて3年目。近隣からも遊びに来てくれて、小さな子どもたちが多くて毎週カオス状態。SADA*も氷鬼など怒涛の鬼ごっこシリーズが延々と続く。私が子どもだった時も大人げない大人たちと思いきりやるSADAが大好きだったので、大人も子どもも本気で遊ぶこの時間をすごく大切に思っています。

生後6ヶ月から両親と一緒に始めたヒッポ。社会人になりヒッポから離れていた時期もありましたが、結婚して長男を出産した2か月後に、茨城での講座に母に誘われたのが、ヒッポ生活再始動のきっかけでした。子どもの時から何も変わらないファミリーでのSADA、メタ活*、交流。でも明らかに違った環境が一つありました。ヒッポの多言語の音源の聞き方『S多重P』です。せいぜい各部屋に1台だった音源が、リビングだけで15台?なぜ?というのが最初の感想でしたが、22台置いてみて実験だー!でもS多重Pによる体感ほぼなし。それよりファミリーに出るたび、自分の口から出ることばの多さにびっくり。子どもの時メタ活の時間は参加せず、ピアノの裏に隠れていた私。なのにその頃大人たちが歌っていた場面が今、私の口からスラスラ出てくる。

6歳の長男と昨年韓国家族交流に参加しました。ホスト家族との車の中で韓国語の嵐を浴びた時、「ホームステ



イに来たー」と、大学生の時以来12年ぶりに感覚が蘇りました。同時に昔は「何言ってるんだろうな?」と想像を巡らせて、頭がすぐ疲れていた。今は随分リラックスしている私の頭。母語でないことばの嵐を浴びることに心地良ささえ感じていました。

自分たちの母語でないことばが飛び交う環境に飛び込んでも馴染める、不快感が起きない、脳が受け入れている、これって家の中でのS多重Pが大きいのかも?長男も初めての海外、ホームステイにも関わらず、日本と何も変わらない。

今病院の手術室で看護師として働いているのですが、先日、外国の方が来院。口を真一文字にして硬い表情だった患者さんに出身を聞くとタイだという。「OK、タイね!」と思って「サワディーカー（こんにちは）」と話しかけたら満面の笑顔になって怒涛のタイ語で話す。手術が初めてで不安ということが伝わってきて、気づいたら自分でもよく分からないままに「マイペンライ（大丈夫）」って口から出てました。すると、はっと驚いた表情になって「本当にタイ語わかるのね!」

01

多様な音と人の中でことばは育つ

02・03

春の国際交流・キャンプ/高校留学YL/受け入れ/ヒッポ作り

04・05

Dr. Suzanne Flynn特集

06・07

第11回LMP/ボクのワタシのマナイマ～な毎日

08

カバ人のつぶやき/海外ヒッポ/インフォメーション



とまた怒涛のタイ語。文法とか単語とか分かんないけど分かっちゃう。でも、何語を話す人でも同じように話しかけていただろうし、同じような現象が自分に起きていたんだろうと思います。タイ語は私の中で比較的遠いことばだと思っていたけど、ファミリーにはタイ語をメタ活する人がいたり、ヒッポの高校留学イヤロンに行った子がいたり。でもそれはタイ語に限った話でなくて、1つの部屋の中でたくさんの人たちとやっている普段のファミリーで無意識でも多様なことばが育っていったんだなと実感しています。

今年の夏は夫が初のメキシコホームステイに挑戦。毎週ファミリーに行きスピーカー22台が鳴り響くリビングで寝落ちしている彼がどんな体験してくるのか楽しみです!(H.S.さん・フェロウ/茨城県・ウマカシジャカルケF)

*【SADA】ヒッポのマテリアル音源の歌に合わせてゲームやダンスで遊ぶ活動

*【メタ活】マテリアル音源に合わせて聞こえてきたとおりに自然に口に出す活動

春・GW 国際交流&キャンプ /

春・青少年交流

春休み、小学校5年生から大学生年代まで、総勢103名がアメリカ・フランス・ベトナム・韓国で、ホームステイしたり、現地の学校に通ったりしました。

韓国



ベトナム



アメリカ



フランス



春・GW 家族交流

春の家族交流は、韓国・北欧へ44名、GWの家族交流は、イタリア・トルコ・台湾へ58名が参加しました。子どもから大人まで幅広い世代と一緒に、たくさんのご挨拶と人に出会ってきました。

台湾

フィンランド
エストニア

トルコ



●奥様のアイチャが台所に立つときに、トルコ料理を教えてくださいましたのが楽しみでした。お返しに日本料理をと、スーパーでお買い物。じゃがいもと玉ねぎと…。家に戻ったアイチャが「ミルクは1本で足りるかしら?」。どうやら肉じゃがの材料を伝えた時、ミートと言ったのをミルクと勘違いしたようです。肉なしの肉じゃがを初めてつくりました。今回の交流で見つけたことは、やはり言葉はひとつなのだと思います。伝えたいことがはっきりしているときには、必ず相手に伝わるんだと思います。そして、勘違いも含めコミュニケーション。ちょっとしたすれちがいも楽しめたらもっとみんなと仲良くなれるんじゃないかと思います。(感想文より抜粋 E. C.さん/埼玉県・ヘンボF)

イタリア



オンライン交流

6月に、中国(20組)・ロシア(10組)の人たちと交流しました。

中国 楊さんとバディになってテレビ電話を2日間、写真のやり取りを3日間しました。大学生の楊さんの目指している仕事にたまたま私がついていて、夢に向かって頑張っている姿がとっても素敵で話も弾みました。(T. S.さん/長野県・グラフH F)

ロシア



多言語雪の学校



恒例の雪の学校、今年は総勢689名が長野県飯山市に大集合。海外からは毎年参加しているインドネシアの高校生や中国の太湖大学堂の小学生を含む13か国89人も参加しました。

イヤーロングプログラム

ホームステイしながら現地の高校に約1年間通うヒッポの高校留学プログラム。2023年冬に出発した11名と2024年春に出発した4名の高校生たちがオーストラリア、アルゼンチン、ブラジル、タイから帰国。2024年夏に出発した68人も続々と帰国しています。

タイ



サプライズで誕生日のお祝いを学年全員がしてくれた。初めてたくさんの人に祝ってもらって嬉しかった。私が手首を触る癖を友だちが気がついていて、プレスレットをたくさんもらいました。(A. Y. さん・高1/神奈川県・おんによん F)

My host family was very kind. So I enjoyed every day. We had lots of fun playing with 3 years old Ezra! I'm very grateful to my parents for spending time with me despite their busy schedules. Thank you to guys who was involved with me. (O. F. さん・高3/埼玉県・ぱおぱお F)

- ブラジル：空港に到着後、お出迎えのみんなへ帰国あいさつ (A. N. さん・高2/東京都・ケセラセラ F)
- アルゼンチン：帰国後、今までにアルゼンチンに留学に行った先輩たちと一緒にオンライン報告会 (S. N. さん・高1/東京都・あおぞら F)



オーストラリア



ベトナム
ラオス



Youtube動画はこちら→



受け入れ交流

さまざまな国や地域からヒッポメンバーの家庭にホームステイ。ホスト家族だけでなく、地域やファミリーの仲間も一緒にゲストを迎えるので、仕事をしていても楽しめるのがヒッポの受け入れ交流です。

キルギス



本当は独りが好きな高校生、一生懸命さがそこかしこに感じられてキュン! (H. S. さん・フェロウ/埼玉県・たんぽぽ F) ▼



モンゴル

ロシア



韓国



◀スポーツゲームがたのしかった。かくれんぼもたのしかった。おみあげもたのしかったのとやさしかった。ジェフがうれしかった。いっしょにたのしかった。(O. K. さん・小2/埼玉県・みじん F)

台湾ヒッポ作り応援交流に参加して

臺灣高雄のフェロウGina宅に行ってきた。昨年末の「台湾ヒッポ作り応援交流」の募集時、私は一も二もなく申し込んだ。まだやったことのないことに挑戦したくて。が、出発前の台湾フェロウたちとのzoomミーティングは散々。中国語はたくさん聞いてきたし受け入れもしているし、正直もっと分かっていた。不安ばかりが募った。

Gina宅に夜遅く着いて、Ginaが話す次の日の予定を、何度か聞き返したりしながらなんとか理解した。翌日韓国の女子大生もやってきた。大阪に高校留学に来ていた彼女は大阪弁もお手の物。Ginaの長女は英語が、次女は韓国語が得意。我が家は一気に5か国語が通常運転に。驚いたのは台湾ホストたちと韓国ゲストたちがことばに困った時、日本語でコミュニケーションしていたことだ。

3日目に日本でホームステイしてきた台湾の子どもたちの交流報告会があった。そろそろお開きかと思った時、Ginaが私を呼んでいる。「何でもいいからヒッポの説明して!」確かに今日非会員の媽媽(ママ)たちがたくさん来ている。ここでありったけのヒッポを伝えないでどうする。私が台湾語を話し出した途端にみんなの顔が一斉にほころんだ。そして私が多言語も交えながらななしの中国

語で話をすれば、それを受けてGinaが何倍にも膨らませて熱く伝えてくれた。私たちは二人で一人だったのだ。

また、8年前に長男が青少年交流でお世話になった台中のホストママAllieが二時間半も車を飛ばして会いに来てくれた。私たちはこの日が「初次見面(はじめまして)」だったのだが、Ginaの家で2人で7時間ずっとおしゃべりしていた。家族のこと、仕事のこと、趣味のこと、お互いの息子たちの現在の様子…。Allie「英語で連絡を取り合ってきたけど、あなたはこんなに中国語が話せたんだね」。私「違うの。今回台湾に来たおかげ。しかも今日はもう5日目だし」。Allieの何とも言えない表情が忘れられない。

私はGinaが話しているのが何語だったか最後まで分からなかった。中国語?台湾語?チャンポン?でも何も困らなかったし、Ginaの口癖がいっぱいうつって帰ってきた。家族以外の人とも無理なく話せるようになった。どうしてだろう?多言語だったから? Ginaたちは多言語世界の住人。家庭内で話す時、メンバーと話す時、買い物する時、それぞれの時と場合で音がなんか違う。変幻自在。だから、私が話す赤ちゃんのような一言一言もちゃんと拾ってくれる。多言語人間は多言語世界でこそ最高に開花できるのだと思った。(F. M. さん・フェロウ/埼玉県・ガンバ F)

Dr. Suzanne Flynnと一緒に

みんなで考えてみよう!「ことばについて基本的なこと」



ヒッポと一緒に共同研究に取り組んでくださっているMITのスザンヌ・フリン教授(言語学・多言語獲得研究)が3月に来日。今回は広島と東京での講演会やワークショップでお話されました。ヒッポと先生とのつながりのきっかけを作ったLEX AmericaのExecutive Directorのエリザベスも全行程に同行。東京でのワークショップには東京大学大学院総合文化研究科の酒井邦嘉教授(言語脳科学)も参加してくださいました。当日、スザンヌさんが講演会・ワークショップで話してくださった内容の要約を一部抜粋して紹介します。(文責:まいにち多言語編集チーム)

🗨️ 言語習得の自然な方法とは子どもと同じ環境

子どもはことば、単語や動詞の活用などを記憶するものではありません。自然な環境(naturalistic setting)の中で、自分のペースで、間違いもしながら、観察して、自分で直しながら見つけていくのです。ヒッポはそれに限りなく近い環境を作っています。SADAをして、家の中のどの部屋でもSDの音を聞き、お互いに様々な違う言語で話し、ホームステイをし、自分の母語に頼らず、できるだけその言語を使い、その言語の中に居続けよう(staying in the language)とします。私が学校でスペイン語を学んだ時とは違っています。ヒッポは自分が実践したかったことであり、ヒッポの理念(principle)が私の研究していたことと重なりました。

🗨️ 赤ちゃんは教えられて言語を習得しているのではない

マザリーズと呼ばれる、自然に子どもにしてしまう話し方があります。ピッチが高くなる、同じことをいろいろな言い方で言う、今やっていることについて言うなど……。そこから子どもはその言語の特徴的なパターンを識別することができます。だから細かいところ(部分)から教えても役に立たない。語彙(vocabulary)は増えるけど、構造(structure)を習得することにはつながらない。

人が間違った時に入る間や、息継ぎ(pause)などの情報も手掛かりになります。どこがその文章の中のひとかたまりかがわかり、文構造(syntax)を習得するのに有効です。

🗨️ 失語の人に「歌」を使う治療方法がある

もともと話していた言語が話せなくなってしまった人に対しての治療方法として、「歌」で質問に答えさせるということがよくあります。赤ちゃんが話し始める時に最初はイントネーション(らしさ)からつかんでいく様子と、歌を歌うということはよく似ています。歌うということが言語の再習得の切り口となるのです。ヒッポがやっている『ことばを歌う』という行為も同じです。

ただ歌を歌っているだけでは言語の全てはつかめないので、そのことがそのまま何でも話せるということにすぐには結びつかない。話せるようになるためには、人と向き合う、直接対話することも必要で、inputとoutputとが両方あるというのがすごく大切です。

🗨️ ことばを習得するには多様な人からのことばが必要

私たちが知っていることは、言語を習得するためには言語があること、たくさんの違う話し手からの言語があることが必要ということです。脳にはバリエーションが必要で、いろんな違う人たち、お年寄り、子ども、男女、違うアクセントで話す人など、いろんな種類のことばが聞こえることが大事なのです。ヒッポはそれを実現しています。

🗨️ 多言語の利点

個人的な対人関係のレベルでは、複数の言語を知ることによって世界中の人々とつながることができます。いろいろな人とつながるといことは、その人の文化・生き方(human nature)を深く理解することにつながります。それは社会的にとっても重要なことです。もっと多くの政治家が多言語人間だったら、もっと世界はよくなるでしょう。

認知(cognition)のレベルでは、複数の言語を知っていることは、①抽象的思考力(abstract thinking)、物事の本質を抜き出して考える力、②数学の能力、③比喩的な表現(figurative language)の理解力といった点で優位性が見られます。その優位性は子どもにも大人にも見られるという研究結果があります。

多言語話者であることの影響は計り知れないということです。メリットは数多くあり、非常にプラスの影響を与えています。だから私はマルチリンガルになりたい!

🗨️ 日本語と韓国語・バイリンガルでの子育ての悩みに対して

アメリカではよくある質問。韓国語で話すのをやめないで、ヒッポ=多言語を続けてください。多言語で話すことがよい(prestigious)ということ、豊かさを親が見せてあげてほしい。実際アメリカでは自分が要らないと思った弱い方の言語にもう一度興味を持つケースがよくあります。

🗨️ ことばを話すから人間

人間以外の種は非常に限られた方法でコミュニケーションをとります。例えばヘビやライオンはcallして仲間と意思疎通はできる。でも、だませない。来ないのに来るとは言えない。しかし、人間は複雑な言語体系を持っている唯一の種で、複雑な思考を人々との間で表現することができます。つまり、人間の言語を持っているということがあなたが人間であるということなのです。



スザンヌ・フリン教授の「ことばについて基本的なこと」14か条と、上記誌面に掲載できなかった部分も含めての要約全文はこちらから読むことができます。→





LEX Americaのエリザベスも、スザンヌさんのお話をサポートしつつ、自らのヒッポとの出会いや、ことばの体験についても話してくれました。

- アメリカでのLEX/Hippoとの出会いは交流事業。フランス語を5年間勉強したけど話せるようにならなかった体験、愛媛県で2年間の英語教師をした時、全く話せなかった日本語が話せるようになった体験があったので、ボストンでヒッポの多言語活動の提唱者・榊原陽さんの話を聞いてその通りだと思いました。
- 日本で初めてヒッポの活動の場ファミリーに参加して、子どもが走り回っていて、こんな中でことばが習得できるのか？と驚きました。でもお話しタイムが始まってみんなにマイクが回ると、みんなのスペイン語はメチャクチャなのに「good job」と褒められている。私も思わずスペイン語で話していました。3年後アメリカでもヒッポが始まり、メキシコにホームステイ交流に行った時、夢がスペイン語になる体験をして、ヒッポのやり方を確認できました。
- スザンヌさんが自分が経験していることを科学的にサポートしてくれて、いつも力をもらっています。



酒井先生も会場からのいろいろな質問にスザンヌさんと一緒に答えてくださいました。印象に残った話を一部ご紹介します。



- もう言語のラベルはいらないんです。方言とか、ちょっとなまり入るよねとか、そんな風に人間のことばを分けること自体が社会の分断を招く。なのでことばも分けちゃいけない、みんな1つなんです。ヒッポの皆さんがモヤモヤとなんか全部一緒だなと思った瞬間、本当の多言語人間になったんだと僕は思います。だから今自分で何語を喋ってるかとかあんまり関係ない、いろんなの聞いて喋ればそれでいいと思っているじゃないですか。でも1番変わったのは皆さんの脳なんです。だから脳が本当に変わってるんだっていうことを少なからず僕らが研究で示すことで、皆さんがさらに元気になることを楽しみにしているのです。
- 抽象概念って難しいことのように思うかもしれませんが、要するに相手の言いたいことが分かる、気持ちが分かる、それが全てなんです。子どもにはそれが1番伝わること、それが彼らにとっての理解なんですね。

●編集チームの呼びかけに集まってくれた全国のメンバーさんたちと感想をシェアしました

音源を0だったところから18台まで増やしたら全然違う。耳が閉じていたのが開いた感じがする。

ファミリーのみんなと毎日夜の8時からオンラインでメタ活している。普段は音源がす〜って流れていっていることも、メタ活やろうとするとその瞬間に耳がさらに開いて、これ聞こえたあれ聞こえたというのがすごいわかりやすい。集中して「聴こう！」ってしてるからだろうな。

ことばはべらべら喋れるのが「習得した」のではなくて、口からポロッと出てきたその一言が、全部「これhappenなんや！」って感覚がわかるようになったのが楽しかった。(T. M. さん/大阪府・吹田 Venid Venid F)

●ヒッポ育ちの言語体験、スザンヌさんの話と重ねてみよう

24YLでタイに行ってきました。タイ語は全然わからなかったけど、どういう会話をしているかという予想はできました。例えば、給食の時に友だちが「次の時間なんだろうね」「これおいしい」とか話していることがわかりました。

ホストママが言ってくれたタイ語のフレーズをまず私がまねをする。その後、ホストのZenが日本語で言ってくれて、また私がタイ語で言う。だいたい1回でまねできました。ママの「รถติดมาก (めっちゃ渋滞している)」「ล่อนอยนะ (値下げして)」などなど日常的なタイ語をまねしていたら、そのシチュエーションになったら勝手に音が出てきました。

日本に帰って来た日に家の中でヒッポのマテリアルの中国

今回、ずっとスザンヌさんの身の回りのお世話を担当しました。スザンヌさんは目の前の人にしっかり向き合って話を聞いてくれる方だなと感じました。2人になってシーンとした時にはスザンヌさんから「お子さんいるの？」とか話しかけてくれて、私の娘の話をしたら、「私も一緒」とご自身のお子さんの話をしてくださって、すごく近かったんです。

私はフェロウになって1年。初めてこんな大きな会を西日本のみんなとやる経験をさせてもらいました。フェロウのみなさんのどうやって外に向けて発信していくかなど、深く掘って進めて行こうとする心意気を感じることの多い準備でした。(A. C. さん・フェロウ/広島県・ビッグウェーブF)

語が流れていて、「中国語とタイ語の文法が似ている？」って思いました。またヒッポのワークショップでシンハラ語で「ママホンディ」と話している大学生がいて、すぐにタイ語のฉันสบายดีだとわかりました。ママがฉัน (私)、ホンがสบาย (元気)、ディーがดี (良い)、文法構造が同じだと思いました。

日本に帰ってきて、スペイン語がすごくわかりやすくてびっくりしました。タイ語と違って初見でもフレーズが単語に切れていく感じ。姉が話すイタリア語がよくわかるようになったのにもびっくり！私に向かって姉がイタリア語で話しかけてくれることが増えました。そしてなぜか数学も分かるように。一発で解釈ができるようになってそれもすごくびっくり！(Y. G. さん・高2/東京都・おさんぽF)

＼The 11th LMP Youth Tokyo／ 多言語で世界を、人生をもっとおもしろく！

第11回LMP (LEX Multilingual Presentation) Youth Tokyo本選が3月20日(木・祝)に大田区民ホール・アブリコにて開催されました。87名がチャレンジしたオンライン予選を勝ち抜いた、15か国34名の若者たち(高校1年生～25歳)が、多言語(3言語以上)で、自らの多言語体験に基づいたメッセージを、世界・社会に向けて発信しました。当日会場を運営しているのもプレゼンターと同世代のYouthスタッフの若者たち約150名。舞台袖では、司会、PC操作、プレゼンター誘導など、会場周りでは、来場者誘導、映像・撮影など、表からも裏からも彼らの力で会を支えています。



《LMP GOLD 受賞者 2名》

●楊紹奕 / Yeoh Shaoyik

(大学生、愛知 / Malaysia)

「半桶水(ばんとんすい) でも
いいんじゃない？」

日本語 台湾語 広東語 福建語
マレー語 英語 中国語



「ただ5分の発表で本当に新しい自分が見つかるの」と疑いました。しかし、LMPは他者との出会いの場であると同時に、自分との出会いだと私は思います。

👉 応援団の声

名古屋大学とのホームステイ交流で仲良くなったイさん。彼は中華系マレーシア人。私たちからすれば多言語人間！すごいね！となると、「私は中途半端なんです」と聞いてびっくり。「半桶水」とは中華系の人の話す中国語をディスることばだそうです。私たちと話すうちに彼も自分の多言語の力に気づいてくれました。最後の賞の発表タイム、

小学生も拳を振り上げて「やったー」と大声を上げました。応援団全員が感動の瞬間でした。(M. C. さん・フェロウ/愛知県・長久手エキメッキF・星ヶ丘ズヴェズダF)

●Batsaikhan Namuun

(社会人、神奈川 / Mongolia)

「言語の力」

日本語 英語 モンゴル語



何度も挫折することもありましたが、最初からたくさんのことで手伝って頂き、色々な人と出会う機会が出来るように下さった“どらみさん、智子さん、ひでさん”など周りの温かい方々の言葉や行動による励ましのおかげで、皆さんの表現としてスピーチ出来たことをとても嬉しく思っています。これからも僕みたいな多言語に興味をもっている方々と自分の体験を活躍しながら、みなさんと一緒に交流を大切にしていって未来を作りたいです。旅は続く！



7家族20人の大応援団。お揃いで作った黄色いTシャツで、名古屋から会場に一番乗り。



モンゴルゲルキャンプを通じて出会ったナムーフ。私たちと交流しながらプレゼンを作り上げました。

LMPサポートフェロウ制作の

『LMP NEWS Vol.3』は
こちらからご覧いただけます。→



●その他の受賞者はこちら！

《LMP SILVER 3名》

Lin Alessia (大阪 / Italy), Chiang

Yi-Jen (台湾), 河邊 拓也 (大分)

《LMP BRONZE 5名》

Xanazzi Skjoldhammer Andreas

(栃木県 / Sweden), 伊藤 花 (神奈川),

板橋 海 (埼玉), 河邊 佳吾 (神奈川),

Pisano Sofia Elettra (神奈川 / Italy)

《審査員特別賞 3名》

Kwon Yonghee (東京 / Korea),

金澤 伊織 (静岡), Siriviriyanonkul

Sukrita (Thailand),

●Youth スタッフの声

今回、私がスタッフとして任された役割は、控え室にいる出場者を舞台袖まで連れて行くプレゼンター誘導チームのリーダーでした。動線や役割分担もチームのみんなとイメージを共有しながら準備を進めていき当日を迎えました。

しかし、初めての会場ということもあり、地下で電波が通じずやりとりできないなど想定外なことも色々起こりましたが、メンバーのみんながリーダーの私にどんどんこうやっていいかなと言ってきてくれてスムーズに進んでいきました。

プレゼンターのみんなは待っている間にお互いのプレゼンを聞き合っていてアドバイスをしていたりと、ライバルというよりは仲間という空気感で時間を過ごしているところもヒッポらしいなと感じました。自分も一昨年プレゼンターとして出場した時に感じていたあの空気をスタッフという立場でみんなと感じられたのがすごく良かったです。来年もぜひやりたいです。(T. Y.さん/愛知県・LUMACA F)

Youthスタッフの活躍の様子。
左はビデオ撮影チーム、右はPC操作チーム。プロ顔負けの仕事ぶり！



ボクの♡ワタシの マナイマ～な毎日



絵：川上三ーし・7歳

皆さんからの「マナイマ～な毎日」のネタをお待ちしています！
投稿は右の投稿フォームまたは下のメールから。

mainichi.tagengo@gmail.com

①本名（ニックネーム） ②お住いの都道府県 ③ファミリー名 ④所属フェロウのお名前 ⑤お子さん＆学生の場合は学年も！（誌面の都合で掲載できない場合があります）



↑投稿フォーム

3月にハル（4歳）＆ナオ（2歳）、夫と家族4人でヒッポを始めました。体験会で視聴音源をお借りした翌々日、同じ音源に何度か繰り返し触れるうちに子どもたちが真似するようになってきて、おお！となりました。それから1ヶ月足らず、子どもたちは「Hola!」「Bonjour!」は既に当たり前。ある朝、ハルが音源を真似して「ハウドゥユドウ?」と言ったら、すぐさまナオが「ナオドゥユドウ?」と言って、ハウがハルって聞こえたみたいで、そこに名前を入れるんだと理解したんだと思います。そしてファミリー（活動の場）で中国語のマテリアル音源の最初のシーンを一人で言い出しました。でも「我们都是「咳嗽猫」。」のフレーズを「ごめん、どーしてヒッポ!」って言うていたんです。聞こえた音で遊んでいる～！（A. R.さん／神奈川県・タマチャーF）

息子3歳10ヶ月。「ヒッポの講演会に行こう!」と伝えたらすんなり準備を済ませて自転車に乗ってくれました。会場に着き、息子からすぐに言われたのが「ママ、公園はいつ行くの?」でした。「じゃあこれが終わったら行こうね」と返すと「公園はいつ買うの?」と言われてそこで初めて息子がヒッポの公園を買いに行くと思ってたことに気づきました。自分が知ってることばの中で想像しながら組み立てていて面白いなと思いました。（F. Y.さん／東京都・陽陽F）

私の4歳の息子がある韓国のイケメン俳優さんに似てる!と立て続けに言われて気になり、初めて韓流ドラマに挑戦してみました。似てるかどうかは正直よくわからなかったけれど、2時間×16話という超大作をあっという間に観終えてしまいました。翌日、朝食の準備をしていたら、ヒッポの音源から突然、韓国語が聞こえてきたんです。その後もどこにいても韓国語が聞こえてくる…。これってただの偶然?あの日以来、聞いている音源は同じはずなのに脳内が全くの別世界。「韓国語」そのものじゃなくて、私の興味が遠かっただけなんだ。

ある日ヒッポの音源で「アニョン、コニー」と挨拶するシーンを耳にし、韓国語の挨拶は「アニョンハセヨ」だと思っていたのに…?その時、以前見たドラマのシーンが頭をよぎりました。座っている人に向かって、主人公が「アンジュ?」だか「アンジャ?」だかと呼びかけている場面。あれ?「アンジュセヨ」じゃないの?同時に「～セヨ」は、もしかして日本語の「～してください」のような丁寧語なんじゃないかと閃きました。すぐに夫に報告したら「わかんないけど、アンジュセヨはアンとジュセヨで分かれるんだと思うよ」と一言。私の確信に近いこの発見は間違えてた…?でもこの話をファミリーでみんなにシェアしたら「すごい!」と拍手が。照れ臭かったけれど嬉しくもあり。私は今、少しずつ多言語の世界を広げているんだと嬉しくなります。（K. M.さん／東京都・おさんぽF）

私は昨年7月にヒッポを始めました。友だちにも声をかけましたが「こんな年寄りに多言語習得なんて無理、無理」と言って、誰も耳をかしませんでした。なにせ私たちは80代の老女、私自身もはっきり言えばできる訳ないと思っていました。ただテレビ番組で見た「新しいことにチャレンジすることが一番のボケ防止」を思い出し、飛びついた次第でした。

スザンヌ・フリン先生のワークショップに誘われて期待もせずに参加しましたが、先生のお話はまさに目から鱗でした。特に「多言語習得は年齢に関係なく、誰でも幾つになっても可能なことが脳科学によって証明されている。必要なのはエネルギー、時間、情熱である」という所にずしんと私の胸に響くものがありました。よし、私がこの説の生き証人になろうじゃないか!今、私の自己紹介では、年齢を強調するのが何よりもポイントになっています。「エッ、信じられない!」という皆さまの驚く反応が何とも嬉しいです。（T. M.さん／青森県・まんまるF）

アメリカ・ユタ州の大学生20名が、愛知県のメンバー宅に2週間ホームステイしました。カウボーイハットを家族の人数分持ってきてくれたアシュトンくん（左）、将来は先生が夢のアリスちゃん（右）。（中部受け入れチーム）

ヒッポ入会約2年。「大人のベベフィー」体験を書きました。（S. Y.さん／東京都・護国寺ハオハオF）

大人のベベフィー

Rich

Hi-ppo入会約2年。元々仕事柄海外の人との交流が多く、「いろんな言葉と話せるといいなあ」と思いつつも、音源と聞いているだけでなんとかなるもんかな…と過していただけなみに、変化のぞきが見えてきて楽しくなってきました。そんな「大人のベベフィー」体験を書きました。

<聞こえる>

①日本

羽田空港に向かうモノレール車内。

今までも「英・中・韓」の言葉でアナウンス

しているなあ…とはあがってはいしたが、

突然「ハネダゴガン…」と「ゴガン!」

こゝろ聞かされたよ!と11秒間車内に入りました。

②フランス

フランスの同僚2人がフランス語で話している時、1人が

お母さんの宛先に「～ダコー」と相づちを打って、「おま…

しーちゃんが毎朝言っているダコーだよ」とパッと聞かされた。



出張が多いのを活かして多言語を
楽しんでるお父さんメンバ
ーの
手書き7枚の体験記。
続きはこちらから↓



カバ人のつぶやき

今年の春は北欧交流（フィンランド＋エストニア）の後半部分に参加した後、ルクセンブルク、スペインのバスク自治州などを訪問する機会を得た。初交流のエストニアではホームビジットも実現。日本ではあまり知られていないが、北欧地域は数百年にわたって複数の言語（多言語）が重なって話されている地域である。フィンランドは長くスウェーデンやロシアの支配を受けており、スウェーデン語やロシア語を話し理解できる人たちが多くいる。エストニアの公用語はエストニア語だが、出会った人はみな英語が堪能で、ロシア語を話す人もいた。どの国や地域も、地政学的なことが大きな影響を持っていると思うのだが、複数の言語が話され聞こえてくるという意味では、日本の人たちよりはるかに多くの「マナイマ〜」体験をしていると言える。

4つのことばが話されていることで知られるルクセンブルクでは、30年近く前にフランスから当時高校3年生で我が家にホームステイした、シルバン君のご縁で、

彼の奥さんが経営している保育園を訪ねることができた。そこでは、まさに多国籍を背景にした家族の子どもたちが約30人。保育士さんが8人ほどいて、中には6つぐらいのことばを話せる人もいたのだが、保育園ではフランス語だけが使われているという。その後訪れたバスク州でも多くの人たちが複数のことばが話せる。バスク州はスペインの中の自治州として長年過ごしていて、人にもよるがスペイン語＋バスク語＋英語を結構話していた。

それらの人たちに、私たちがMIT、東京大学、LEX / Hippoで行ってきた共同研究の内容の話をする、皆さん大きくうなずいて理解してくれたのである。しかし「多言語に触れていることが脳の言語認識や獲得に優位」な点については、まだまだ、しっかりと認識されていないような印象も持った。これからも継続して、広く世界に発信し共有していく必要があると改めて強く思った訪問となったのである。

（鈴木堅史・言語交流研究所代表理事）

Information /

●夏の交流・キャンプが始まりました。これまで家族交流だけだったモンゴル、新しく青少年交流もスタート！3泊のゲル・ネイチャーキャンプの後、1週間のホームステイ。どんな体験報告が聞けるか楽しみです。🐾

●この冬、インドネシア家族交流が始まります。バリ島・コモド島を中心に現地の人や自然とたっぷり触れ合うプログラムを企画。詳細の発表と参加者募集開始をお楽しみに！🦋

下見の様子は
こちらから→



●Moi! 新しい多言語マテリアル、フィンランド語の制作が始まりました。北欧交流が始まって2年、ESP（ユーラシア・シルクロード・プロジェクト）の一環としても、多言語のつながりを感じる機会がますます増えそうです。🐾

.....

海外ヒッポ /

WORLD HIPPO

日本から始まったヒッポ。ホームステイ交流などでヒッポに出会い、ヒッポを好きになってくれた人たちが、少しずつ世界に活動を広げてくれています。

▶ LEX America :

LEXConnect! was the best event!

LEX / Hippo members from around the world gathered in Boston last month for LEXConnect! This event was the most special Homestay and 合宿 we have ever done.

The homestay matching was magical! 100% of our host families and homestay participants said they were "extremely happy" with their experience.

And what did we love about the weekend 合宿? Everyone said the best part of the event was 繋がり with each other. I was moved by the words of one participant from Japan, "When I first joined LEX / Hippo I wondered why it was called Hippo Family Club, but when I met everyone here, I felt "I came back home!" Now I understand why it's called Hippo Family.

(Elizabeth White / Executive Director)



▶ 韓国ヒッポ:

夏青少年交流の引率でアメリカへ

5月に日本の青少年交流準備合宿に参加しました。子どもたちが中心になりプログラムを進めていくことにとても驚きました。皆が積極的に配慮し合う姿からたくさん学びました。交流する国の文化に対しても学び、ホームステイ中にしたいことも考えて準備をしました。ヒッポの活動は目の前の人と関係を作り私



自身の認識の幅を広げてくれ、より広い世界との交流を探してくれるものだと思います。(K. S.さん / Wagga F)

▶ LEX México :

Viva Bebé Field!

Jambo Amigos! ça va? Soy Wakamechan de México. I was

born around Hippo. 今、ママとして迎えたこの新しいステージ、I felt it was time for Baby Field to be born in Mexico. 毎週金曜日、4人のママたち & kids で集まって、子どもたちのことだけでなく、自分自身のことや、多言語家族の成長についても分かち合っています。¡Es muy interesante! 育てるって、ことばだけじゃない。(F. M.さん・フェロウ / La vie en Hippo F)



▶ 台湾ヒッポ :

日本からの台湾応援交流、謝謝!

2019年冬天、我遇見Hippo多語Family。子どもたちが自然に多言語を習得している姿に衝撃を受けました。フェロウ研修やYL帰国報告会に参加。言語は「動機」と「交流」から生まれるものだとより確信しました。コロナ禍で活動が一時中断されたものの、2025年、日本のヒッポが月に1回フェロウを台湾に派遣し、彼女たち自身や赤ちゃんの時からヒッポをやっている子どもたちの体験を分かち合ってくれるようになりました。最初の応援フェロウが来た時、私は大学の教授の親友に直接話を聞いてもらいたいと思いました。親友はヒッポの仲間になりました。本当に嬉しく思っています。(T. L.さん・フェロウ / 台北123F)

